

～誰もが暮らしやすいまちを目指して～ あしきたバリアフリーまちづくりプロジェクト

熊本県立芦北高等学校
福祉科 2年

井川 魔袋斗
洲本 彩心
川崎 紗矢

わたしたちのまち ～ あしきた ～



うたせ船



美しい山や海



佐敷城跡



足赤えび天井

熊本県の南部に位置する芦北町は、美しい海と山々に囲まれた自然豊かな町です。四季折々の風景が楽しめるこの町には、訪れる人を魅了するスポットが数多あります。特に夏の時期、御立岬海岸や芦北海浜総合公園は、多くの観光客で賑わっています。

プロジェクト

調査 1

実習施設での調査〔介護実習〕

< 施設でのくらしの配慮からヒントを得る >
インタビュー調査 / バリアフリー&ユニバーサルデザイン調査



調査 2

あしきたのまち歩き バリアフリー調査〔校外学習〕

< 実際にまちを歩いて感じる・考える・知る >
インタビュー調査 / バリアフリー&ユニバーサルデザイン調査



調査 3

校内 1日車いす体験

< 車いすを使用する当事者目線からバリアフリーを考える >
移動の際に生じる課題、建物（構造上）の課題、心情を調査



実習施設での調査〔バリアフリー・ユニバーサルデザイン〕

施設のバリアフリーやユニバーサルデザインから
まちづくりのヒントを得られないか



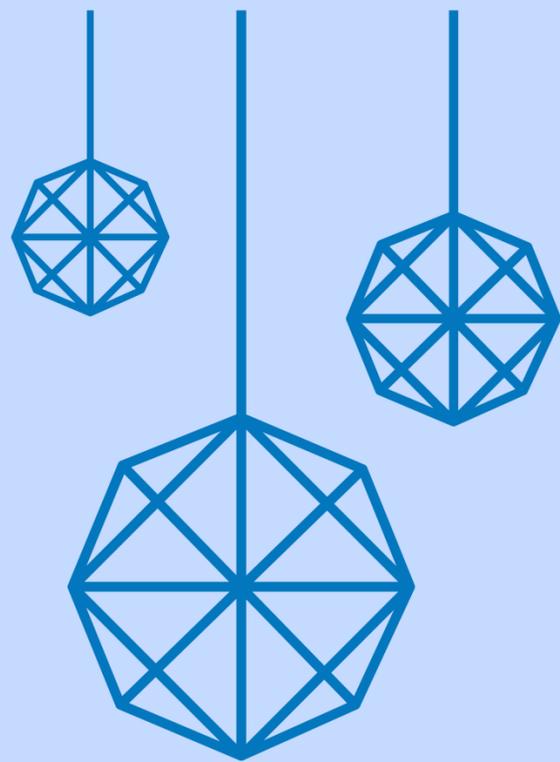
職員さんにインタビュー



バリアフリー
ユニバーサルデザイン調査

〔 ご協力いただいた施設 〕

- 特別養護老人ホーム五松園（芦北町）
- 障害者支援施設 石路の里（芦北町）
- 特別養護老人ホーム白梅の杜（水俣市）
- 介護老人保健施設 新清苑（芦北町）
- 特別養護老人ホームあけぼの苑（津奈木町）
- 特別養護老人ホーム白梅壮（水俣市）

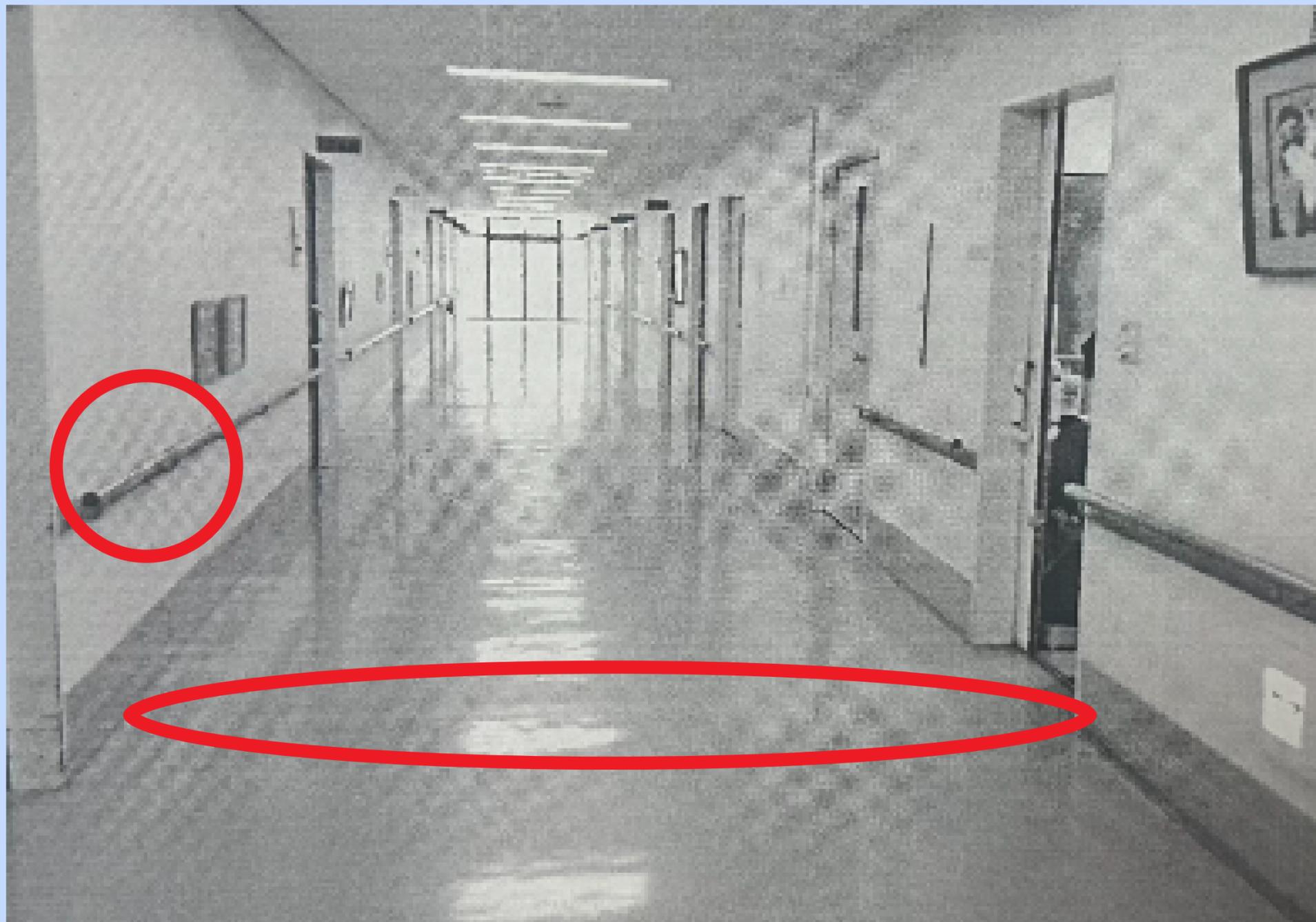


施設のバリアフリー ～利用者様への配慮～



国際シンボルマーク

廊下には段差がなく、幅が広い👉



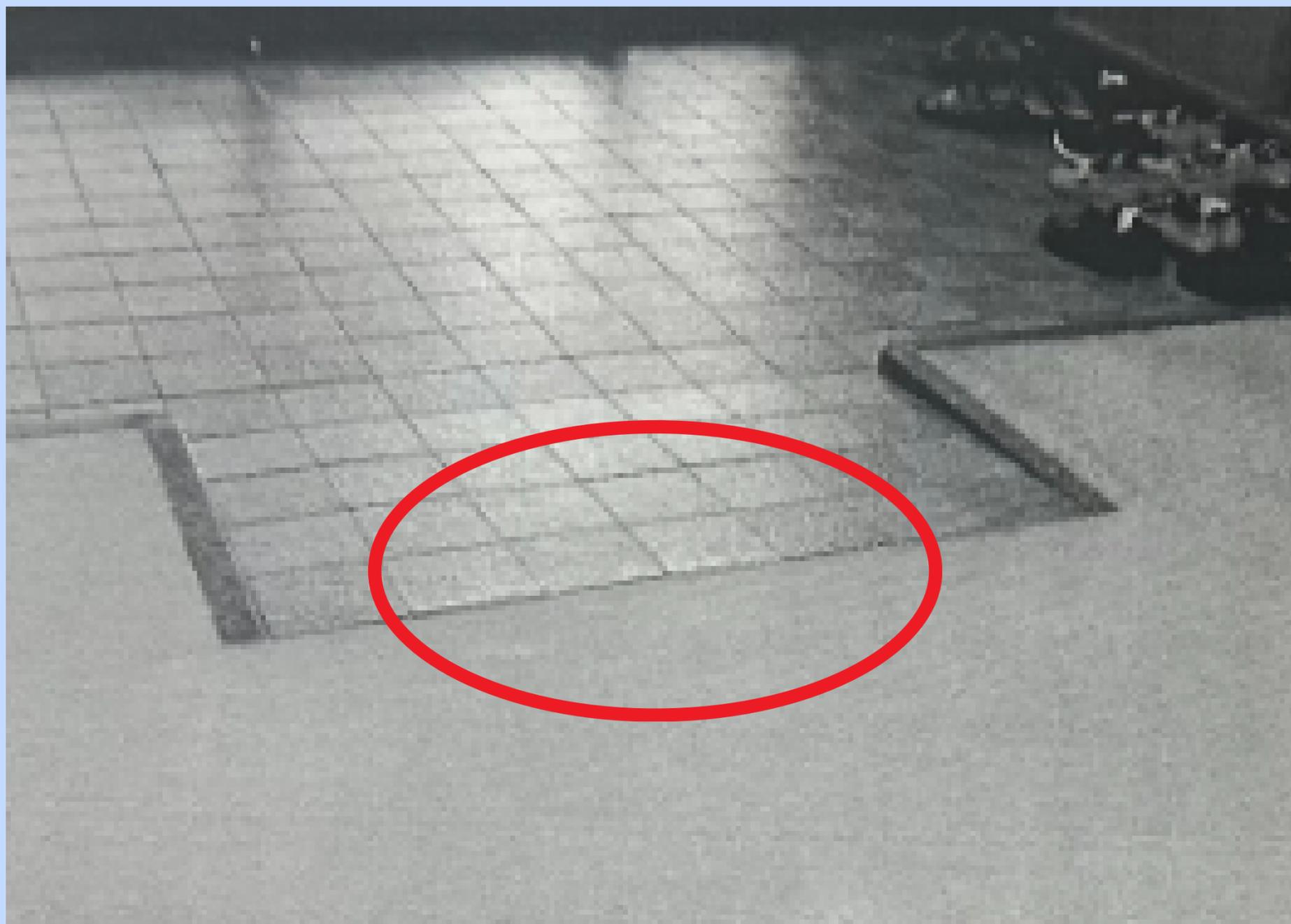
この配慮があることで…

段差がないことで
転倒のリスクが軽減される
高齢者や車いすを使用している方、
歩行器を使用している方、ベビーカーを
押している方などが移動しやすくなる
手すりがあると歩行時に安心

まちづくりに応用するとしたら

フラットな道
道幅が広い歩道
公共施設に手すりを設置

玄関はスロープを常設



この配慮があることで…

車いすでの移動が楽にできる
足腰にも負担が少なく移動しやすい

まちづくりに応用するとしたら

ベビーカーやシルバーカー、
自転車を使う場合も移動が楽なので、
公共施設やショッピングモール等
にもあると、利用客が増える。

車いす利用者様に配慮した開閉可能な居室のドア（扉）



この配慮があることで…

居室の入口の幅を簡単に調節できる
車いすの方でも開閉しやすく
入りやすい

まちづくりに応用するとしたら

状況に応じて、簡単に扉の幅を変えられるので安心できる。

洗面台の工夫

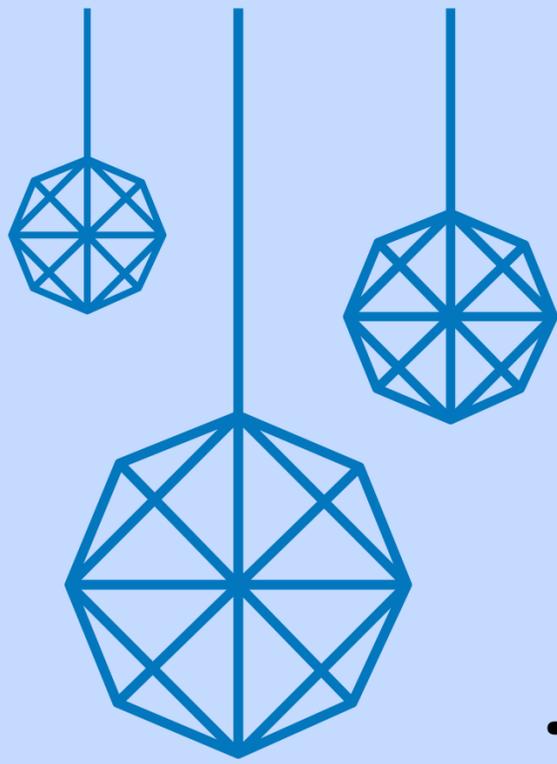


この配慮があることで…

車いすの方が足元が奥まで入り
蛇口に近づくことができる
斜めにカットされているため
車いすでもアプローチしやすい

まちづくりに応用するとしたら

どの施設においても、
これがあると、
車いすの方が外出しやすい



施設のユニバーサルデザイン ～利用者様への配慮～



ユニバーサルデザイン爪切り

トイレの工夫



この配慮があることで…

足が不自由な人も自分でトイレができる
手すりがあるおかげで、
ふらつきがあっても床への転倒を防げる
背もたれにクッションがあり、安定しやすい
手置きがあると、立ち上がり時に力が入りやすい
座位や立ち上がりを安定させる手すり

まちづくりに応用するとしたら

トイレを新設する際は
この様式で設置すると
誰でも使いやすいのではないかと

トイレの工夫（2）



汚れたときはシャワーでの洗浄も可能

この配慮があることで…

足を失った障がい者でも移動しやすい
態勢を大きく変えることなく移動ができる
汚れた時はシャワーでの洗浄が可能

まちづくりに応用するとしたら

多目的トイレの数を増やす

車いす利用者様に配慮した鏡の設置



この配慮があることで…

鏡が下向きになっているため、
車いすに乗ったまま顔がしっかり映る
小さいお子さんでも顔が写映りやすい

まちづくりに応用するとしたら

このような配慮があると、
車いす利用者は外出しやすい

すべての人にやさしい自動水栓手洗い



この配慮があることで…

子どもから高齢者まで操作が簡単
感染対策
節水効果

まちづくりに応用するとしたら

不特定多数の利用客が使用しても、
安心して利用できる
ただし、停電になったときに
使用できるのか心配である。

電灯の入切ほたるスイッチ



この配慮があることで…

力が弱くても押しやすい
光があるため、暗闇でも探しやすい
色でオン、オフの区別ができる

まちづくりに応用するとしたら

人感センサーだと良いが
コストが高い？

エレベーターに鏡が設置されている



この配慮があることで…

自分の位置や
車いすと扉の幅が
わかりやすい

自動販売機の工夫



この配慮があることで…

- ・ 高い位置の商品は、下のボタンで選択できる。
- ・ 受け皿があり、斜めになっているため、小銭を置くだけで良い。
- ・ 取り出し口を高くしてあるため、車いすでも商品を取りやすい

トイレトペーパーの工夫



この配慮があることで…

- スポンジを回すと、紙が出しやすい。
- 2口あることで、座高に合わせて利用できる

校外学習 ～あしきたのまち歩き～



まち歩きの際に3つの体験を実施

高齢者疑似体験



車いす体験



視覚障がい者体験



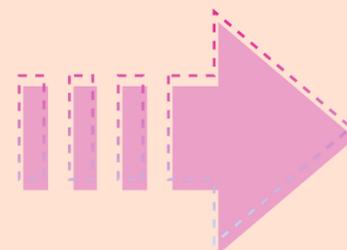
芦北高校グラウンド横の歩道

高齢者疑似体験



問題点

- ①段差がある
- ②坂になっている



物理的バリア



こんな人が困る



車いすを利用されている方
ベビーカーを使用している方



私たちの提案

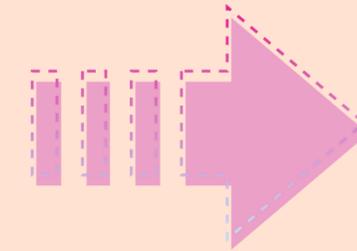


道がまっすぐになり坂がなくなれば
乗っている人も押す人も使いやすくなる

道の駅 芦北でこぼん (1)



問題点 点字ブロックがない



物理的バリア



点字ブロックがあると…

誘導に従って歩くことができる
転倒の恐れが軽減される
外への外出でも安心できる



困っている人を見かけたら…

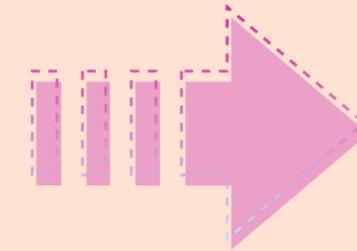
腕を引っ張ったり後ろから押したりせず
腕や肩を掴んでもらい
相手のペースに合わせる

道の駅 芦北でこぼん (2)



問題点

身体障害者補助犬の
同伴が禁止



社会的バリア



身体障害者補助犬



盲導犬

聴導犬

介助犬



食品や生ものを提供・販売
しているため同伴が禁止



障がいのある方も安心して買い物ができるように

1. 従業員の方がサポート
2. 移動販売や配達などを使い提供
3. 移動支援や同行支援

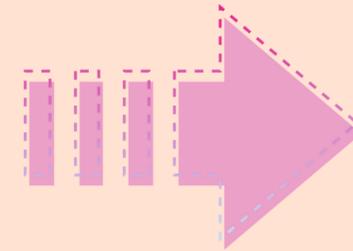
肥薩おれんじ鉄道 佐敷駅

車いす体験



問題点

バリアだらけの
駅の構内

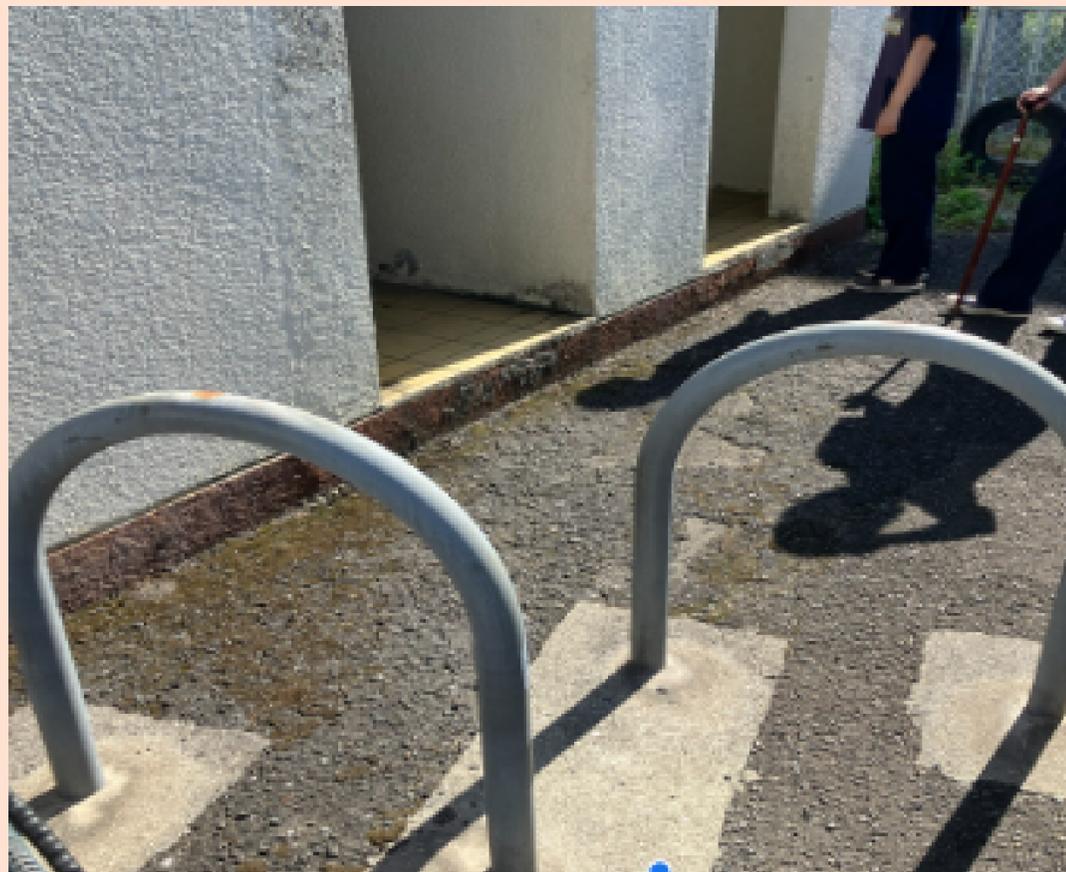


物理的バリア



駅外にあるトイレまでが狭い
外にあるため、雨の時濡れる
築年数がかなり経過しており
和式トイレのまま

柵があり車いすでは通れない
段差があり、入りにくい



ホームに移動する際、
階段を上がるしかない
エレベーターがない
段差が高い

肥薩おれんじ鉄道 佐敷駅

💡 私たちが考えた改善点の提案① 駅のトイレについて

- トイレを和式から洋式に変える ⇒ 腰の負担、車椅子の方への移乗が楽になる
- トイレに行くまでの道とトイレの中に手すりをつける ⇒ 転倒のリスクを改善
- 全部の段差をなくす ⇒ 安全に通れるように
- トイレの中には点字、道に点字ブロックをつけるなど道を整備する
⇒ 視覚障害者の方にトイレの場所がわかりやすくするため
- オストメイト対応、オムツ交換台、こども用トイレの設置
⇒ 誰もが使いやすく利用しやすいように

洋式トイレ



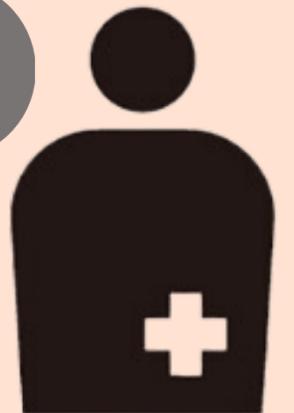
おむつ交換台



こども用トイレ



オストメイト
対応

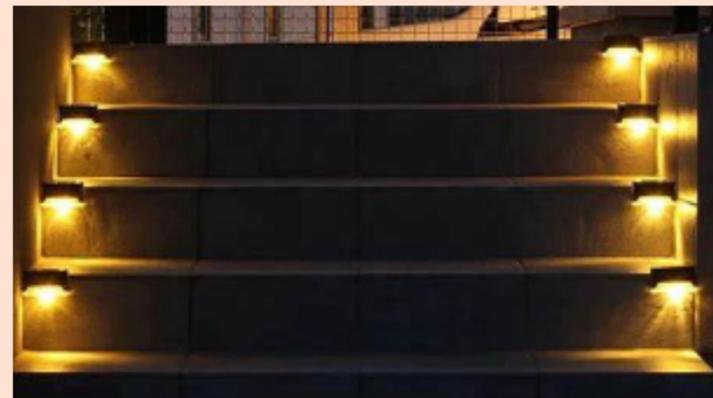


肥薩おれんじ鉄道 佐敷駅

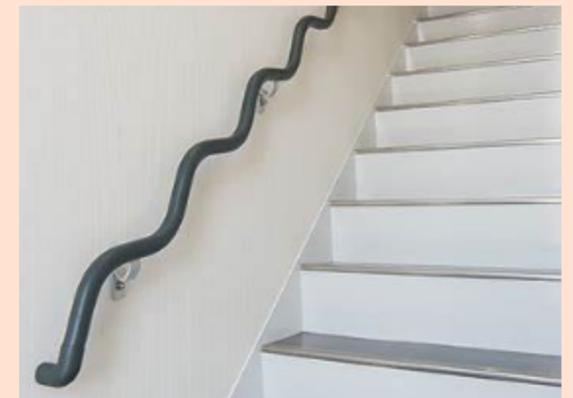
💡 私たちが考えた改善点の提案② 改札からホームまでの階段

- 階段の段差を低くし、足を乗せる面積の場所を広くとる
⇒ 転倒するリスクが低くなる。足が引っかかることが少なくなる。
- 足元に照明をつける（フットライト）
⇒ 段差が見やすく、踏み外しを防ぐことができる。
- 手すりの上り初めに点字をつけ、止まる時は点字ブロックをつける
⇒ 自分が今から何をするのかどこで止まれば良いのか分かるので、視覚障害がある方でも使用することができる。
- 波型手すりを設置する。⇒握りやすく、滑りにくい。

フットライト



波型手すり

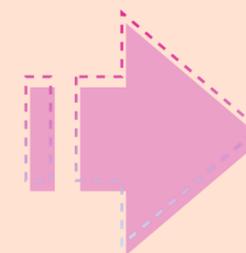


芦北町役場

車いす体験



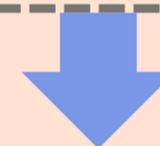
問題点 お金を支払う時の機会の位置



物理的バリア

支払機

車椅子は座高が低くなってしまうため
手が届かないなどの影響がある。
モニターに映し出される金額が見えても
お金をいれることが難しい可能性がある。



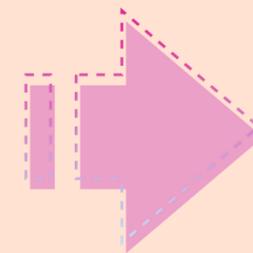
機械の位置を下げる。
お会計を機械ではなく職員の方と
手渡しで行う。



芦北町役場



問題点 案内板とパンフレットの位置



情報的バリア



案内板…天井から吊り下げてある

車椅子利用者、円背の人、子どもが見えづらいのではないかと
⇒ 床に行き先が分かる目印・矢印を貼る

パンフレット…高いところに置いてある

車椅子利用者、円背の人、子どもが見えづらいのではないかと
⇒ 引き出しにパンフレットの番号を書き
引き出しから取るようにする。

芦北町民総合センター

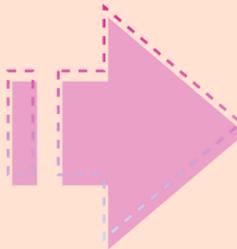
視覚障がい者体験

スカイドームの坂道



問題点

介助者がいない方にとって
自力で坂を上がることは難しい



物理的バリア



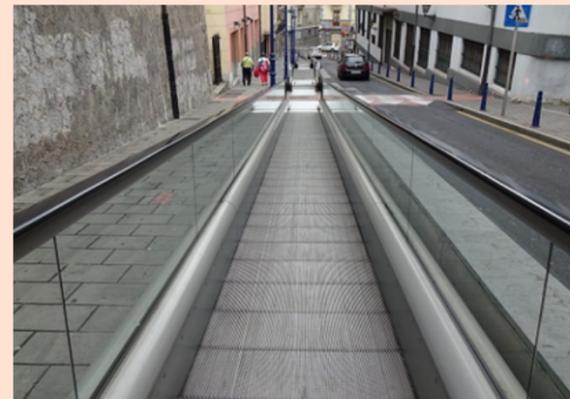
スカイドーム（施設）の対応

スカイドームの出入り口までの坂道を
介助者が車で送迎する対応をしているそうです

💡 私たちの提案 💡

歩く歩道の設置

スペイン
ポルトゥガルテ地区



広島市比治山
スカイウォーク



車いす 1 日体験 in 芦北高校

体験をとおして、車いすで生活されている方の
当事者目線でバリアフリーについて考えることができるのではないかと

移動の際に
生じる課題



建物（構造上）
の課題



心情を調査



[1 日の体験内容]

- ・校内でのすべての活動を車いすに乗った状態で行う（授業、掃除など）
- ・車いす利用時に不便に感じたことやその時の気持ちを記録に残す

車いす 1 日体験 in 芦北高校

移動に生じる 課題

校内を車いすで移動してみて、どのようなことが難しかったか整理しました。



段差がある
廊下が狭い

移動する時、**だんだんあとから腕が疲れてくる。**
段差の超え方などを分かっていないと、移動の仕方が難しいと思った。

自分が行きたい場所に行くのに時間がかかる。車椅子は幅を取るため**Uターンするときが大変**だった。

腕がつかれたり、足を使ってしまいがち。

ちょっとした段差が大きな障壁になる。

いつもはあまり感じない**小さな段差でも動けなくなったりして大変**だった

車いす 1日体験 in 芦北高校

建物(構造上) の課題

校内で車いす移動する際、学校にどんな構造上の問題があるのか整理しました。



角が多く曲がるときに危ない、階段や段差が多い

トイレが和式だと、何もできない

スロープを自走するのもきつかった。筋力が落ちてきている高齢者の方は自走することは少しむずかしいと考えた。また、段差が多いためそこも課題点だと思った。

2階・3階に行けず、図書室や普通科職員室などよく行く部屋にいけなくなることや車椅子でトイレに行こうとしたら一箇所しかないところ

段差がある

廊下が狭い

エレベーターがない学校が多い

今、使っている机だと車いす使用時は足元が奥まで入らない（机と体の間が空いている）

トイレが狭い

黒板届かない

車いす 1 日体験 in 芦北高校

心情調査



校内で 1 日車いすでの生活をしてみて感じたことや思ったことを整理しました。

学校は大きな怪我をしたら一気に過ごしにくい場所に様変わりする事がわかった。
また、自動販売機は上側の商品が届かないこともわかった。

机の大きさを車椅子が入るぐらいの大きさにして、車椅子の足元が奥に入るようになれば、自分の好みの位置が決まり、落ち着くと思った。

図書室や職員室など行く頻度が多い部屋はできる限り一階や一箇所にまとめると車椅子になったとしても生活しやすいのかなと感じた。

学校に限らずに日常生活でよく行くところは平地にあるると生活しやすくなると思った。周りに助けを求めやすい空気を作るのもとても大切と感じた。

物珍しさに見られている気がする
気を遣ってくれる

実習室の中で移動する時、机があったり部屋が狭かったので移動がしづらく細かいところまでみないと机に当たったりすることが多いなと思った。でも、ピロティは広く平坦だったので移動がしやすかった。人が結構いても移動はできるのかなと思った。

座る態勢を変えず同じ姿勢で座っていると、体がどんどん沈んでいき座りにくかった。態勢を変えないとそこに重心がかかり、体が痛くなったりするのかなと思った。そして、ずっと車椅子を漕いでいると腕が痛くなった。

スロープを使おうとした時そこに行くまでの道が狭く、時間がかかってしまうなと思った。

タイヤを回すためには腕を使わなければいけないので外出をするとなると体の負担も大きくなるし暑い日や寒い日は体調にも影響がありそうなので車椅子で生活されている方は強いなと思いました。また座り直しができないとおしりや背中が痛くなりました。そのため麻痺がある方などには座り心地や痛いところはないかなど声掛けすることを施設に行った際には気かけられるようにしたいです。また実習中車椅子に移乗介助をさせていただく際には丁寧に介助をして行こうと思いました。

人生で初めて1日車椅子に乗った。いつも授業で1時間椅子に座るだけでもお尻が痛くなるのに、1日車椅子に乗ると、立つことができずおしりにかなり負担がかかるなと思った。座り直しができない方はだんだん姿勢が崩れてきたり、おしりや背中に褥瘡ができたたりなどの皮膚症状が出たりなど車椅子生活は心身に負担があるなと思った。

トイレに行くときに自動販売機の横の段差や居宅の横にあるスロープの少しの段差でも自走することが困難でありどうやって行けるのかを考えたり、ここはどういうふうに進もうかなど考えることがたくさんあった。3年生に「車椅子おしてください。」と頼み、おしてもらったがまちに出た地域の人に頼むことは緊張したり、声をかけにくく難しいなと思った。

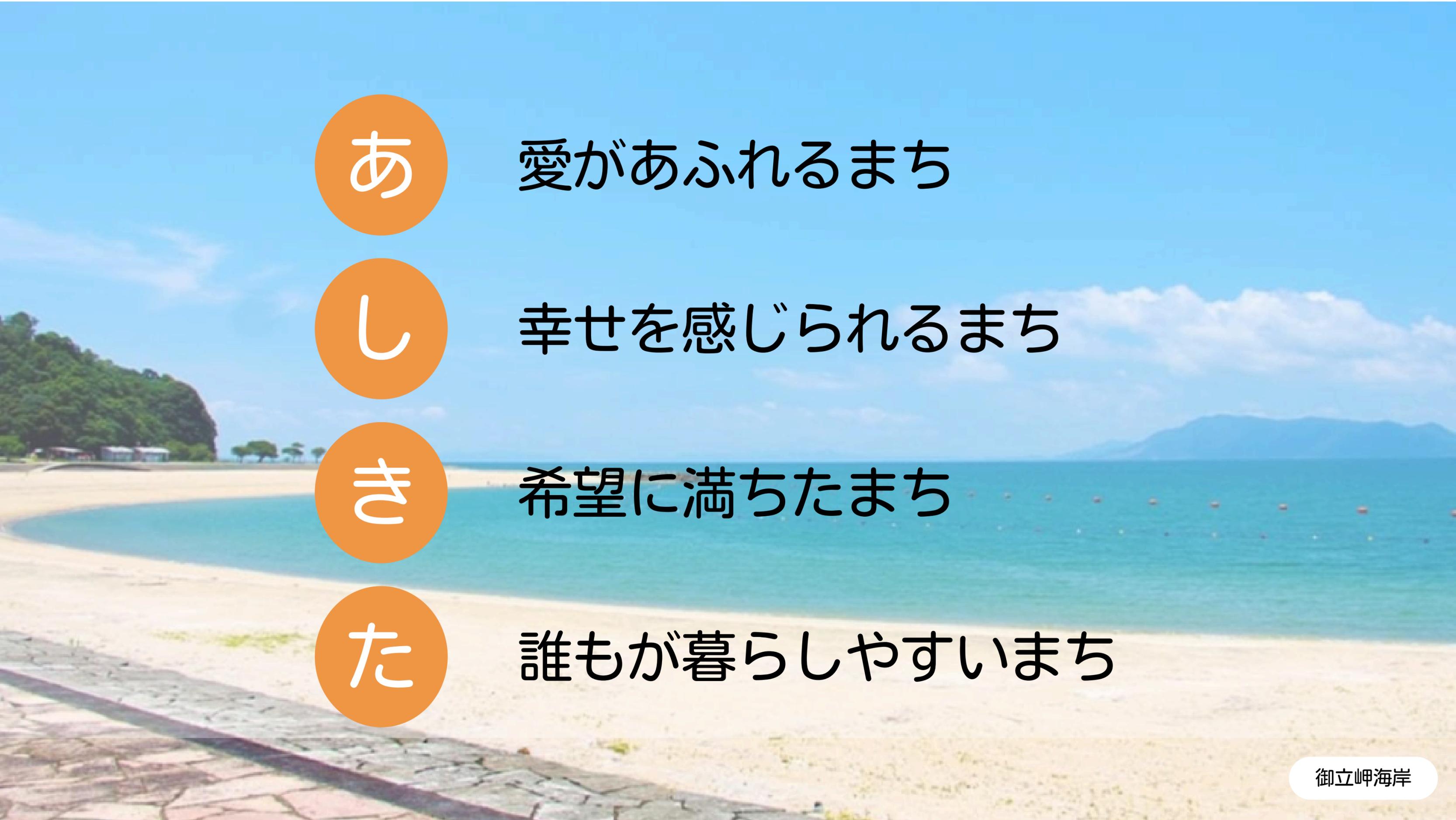
お店での配慮として定員さんの名前カードや店の窓ガラスなどに「いつでも声掛けしてください。」や「すぐに駆けつけます。」などの配慮があることで声をかけやすいと思った。その場所の雰囲気も大事だと思った。

立っている人が自分よりも目線が上で目が合うと見下されてる感があった。もしも自分だけが車椅子生活で周りは普通に立っている人たちの中で生活していたら孤立感が出て話しかけにくくなることもあるのかな。

自走できても物に手が届かなかったり誰かを頼らなきゃいけない場面があれば自己肯定感も下がって気力も無くなるような気がした。なので車椅子の方には目線を合わせて話しかけやすいように自分から声をかけたり気を遣う事が大事だと思った。

体に麻痺がある人は体勢が崩れたり下に体が落ちて行っても誰かに手伝って貰わないといけないし、周りに人が居ない時は下半身に体重がかかり褥瘡が出来やすかったりすると思うので、そこも考えて利用者の方と接しようと思った。

他にもわざわざ遠回りなどをして対処するなどをしなくてはいけなかったと思います。日常で車椅子の方をあまり見る機会などはあまりないけど、ここが不便だろうな、これをこうしたら過ごしやすくなるんじゃないかななどの疑問を持つことで少しでもバリアフリー化が進むと思いました。



あ

愛があふれるまち

し

幸せを感じられるまち

き

希望に満ちたまち

た

誰もが暮らしやすいまち

地域や社会を
わたしたちのチカラで変えていく
「あたらしい幸せ」をデザインする



熊本県立芦北高等学校

www.subarashiisaito.co.jp

